

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）  
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和4年2月末	令和4年5月末	令和4年8月見通し	令和4年11月見通し
+80千トン 〔 2175千トン〕 (103.9%)	+20千トン 〔 2195千トン〕 (100.9%)	+10千トン 〔 2205千トン〕 (100.5%)	+10千トン 〔 2215千トン〕 (100.5%)
2171千トン(99.8)	2096千トン(95.5)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和4年3月末	令和4年6月末	令和4年9月見通し	令和4年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は126,400円。前期比+3,000円。年度末ということで若干仮需は発生したと思われる。メーカー値上げを受け手持ち物件を早めに手配する動きが加速したような感じである。流通は仕入を抑えていることもあり、適正を維持。製造業関連では建産機は堅調だが、メーカーによっては半導体など部品不足の影響が出ている。自動車生産においても半導体などの影響で調整が続いている。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,100円。前期比+2,700円。建築について大型物件は堅調に推移。中小物件は相変わらず低調。スクラップ価格が下落したが、電炉メーカーが現状価格を維持する姿勢が強く市況は踊り場状態となっている。一方、高炉メーカーでは値上げ姿勢は強いまま。需要がなく過剰感がある中で、与信不安を抱えながら流通は価格転嫁することとなった。	建築について大型物件は堅調だが、中小物件の回復が進まず低調さが恒常化しつつある。某電炉メーカーの値下げ発表により、市況は下げ基調となったがスクラップ価格が反転し現在市況は踊り場状態となっている。市況が上昇し続けたことで信用不安が我々流通にものかかってくる。製造業関連はメーカーによってまちまちだが、部品不足の影響により生産計画よりも下回る生産となっている。	季節的な要因で需要は出てくると思われるがあまり期待できない。建築について大型物件は堅調。中小物件もある程度出てくると予想されるが限定的で大きな盛り上がりはないだろう。製造業関連についても一部で堅調に生産が進んでいると聞くが部品不足が解消される見込みがないため年内は期待できないと思われる。積残し分の価格転嫁をしたいところだが、今後の需要は期待薄のため流通は信用不安を抱えながら、市況を維持するのが精一杯だろう。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

8月の仕入量は144,196トン前月比-8.7%、前年同月比+4.2%、販売量は146,948トン前月比-9.4%、前年同月比+2.6%。前月比では仕入量・販売量とも減少、前年同月比では仕入量、販売量とも増加となりました。在庫量は227,644トン前月比-1.2%、前年同月比+10.3%、在庫量は前月比減少、前年同月比著増しました。在庫率は154.9ポイントと上昇しました。

8月の販売量は稼働日の関係で前月比減少しましたが、前年同月比では増加しました。スクラップ価格が下落傾向の中、追い打ちをかけるように某電炉メーカーの値下げ発表があり市況は弱含みました。建築については相変わらず中小物件が少ない状況です。

## 4. 大阪の動向

スクラップ下落で市況も様子見や当用買いが続いている。建築向け、土木ともに低調。ただし大型物件は好調な影響なのかH形鋼の一次加工は忙しく納期に時間がかかっており大阪近郊で手配しにくい。

10月～12月の需要予想は、コロナウイルスの制限も緩和方向で季節的にも需要期な事から、7月～9月よりは建築需要が出てくるものと思われる。しかし以前から課題の中小案件は聞こえてこない事から、大きな期待は出来ない。土木関係も悪くないと言うが需要に盛り上がり無く、例年に比べると静か。全体的には少しの増加程度の結果になるのでは。と予想。